

新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日時：平成29年2月17日（金）17:30～18:30

場所：脳研究所 1F 検討会室

1) マウスにおける超過剰排卵処理 由来排卵卵子の応用

中瀧 直己

熊本大学 生命資源研究・支援センター（CARD）

資源開発分野（新潟大学脳研究所共同研究拠点共同研究者）

私たちは、幼若マウスに妊馬血清性腺刺激ホルモンと抗インヒビン抗体を同時に投与することにより、極めて多くの卵子を排卵させることに成功した（Takeo and Nakagata, 2015）。そこで、本講演では、これら卵子と新鮮精子、冷蔵精子および凍結精子間での体外受精成績について紹介する。

2) マウス凍結受精卵を用いたゲノム 編集個体の作製

—超過剰排卵誘起法による体外受精卵の利用—

中川 佳子、竹尾 透、中瀧直己

熊本大学 生命資源研究・支援センター（CARD）

資源開発分野（新潟大学脳研究所共同研究拠点共同研究者）

現在、遺伝子改変マウスを利用した研究は世界中で行われており、効率的な遺伝子改変マウスの作製は、各研究機関において重要な課題である。私達はこれまでに体外受精により作製した凍結融解受精卵を用いて、TALENやCRISPR-Casシステムによる効率的な遺伝子破壊マウスの作製が可能であることを報告した（Nakagawa et al., 2014, 2015）。本セミナーでは、当研究室にて開発した超過剰排卵誘起法（Takeo and Nakagata, 2015）を用いて体外受精を行い、作製した凍結受精卵とCRISPR-Casシステムを利用したゲノム編集個体の作製について紹介する。

どうぞ奮ってご参加ください。

（担当：動物資源開発研究分野 笹岡俊邦、内線2163）
新潟脳神経研究会幹事代表：那波宏之